

BEING FREEDOM

—不登校の家族向けイベント「フリーダム」と勉強会—

代表者 網本翔太（教育B 2年）
構成員 古谷慶太郎（教育B 4年） 島村貢世士（教育B 4年） 田中孝行（教育B 4年）
成富周平（教育B 4年） 山田洗一郎（教育B 4年）
石村智子（教育B 4年） 大村美喜（教育B 4年）
岡本知恵（教育B 3年） 片山彩（教育B 3年）
下田将晶（教育B 3年） 駒嵐祐香（教育B 3年）
西田若葉（教育B 3年） 戸谷紀子（教育B 2年）
松田咲子（教育B 2年） 藤田理恵（教育B 2年）
大山薫（教育B 2年） 島地大樹（経済B 2年）
安藤志乃（人文B 2年） 熊谷佐紀（教育B 2年）
日高美咲（教育B 2年）

1. 1年間の活動内容

平成 21 年度における BEING FREEDOM の活動内容を報告します。

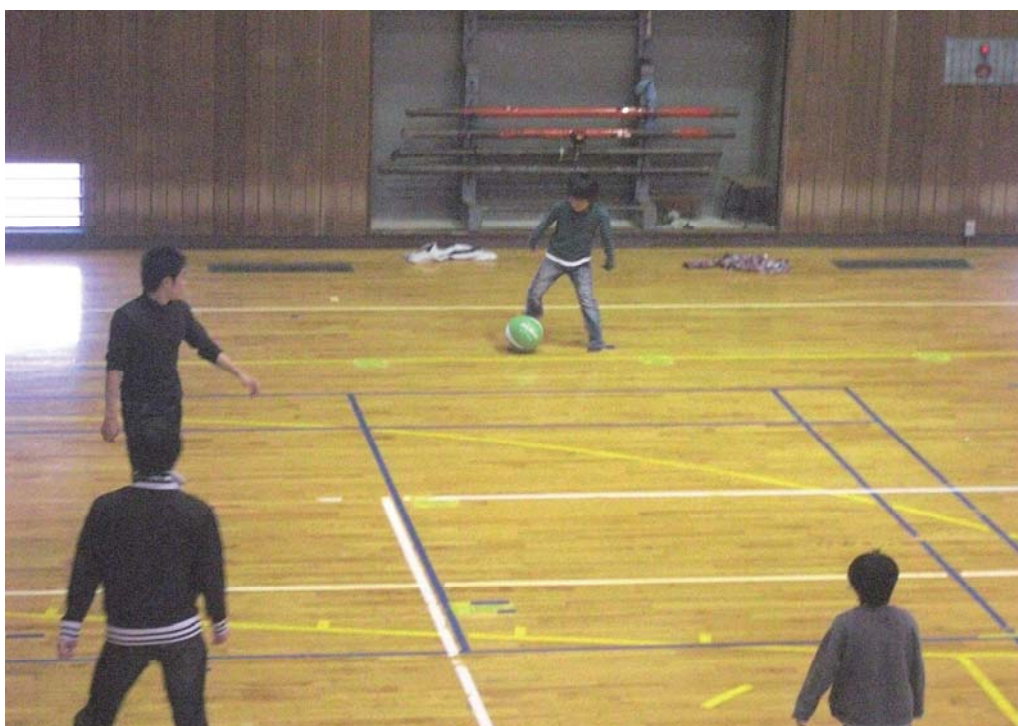
まず、大きなイベントとして不登校の子どもとその保護者のためのイベント「フリーダム」を3回開催しました。第1回は平成21年5月24日に、不登校児童・生徒と大学生の交流会に加え、保護者向けにはNPO法人NEST代表の石川章先生の講演会と先生を囲んでの座談会を行ないました。第2回は平成21年12月6日に開催し、児童・生徒のためのお祭りを企画、ボーリングやストラックアウトなど、手作りのゲームやブースを用意しました。保護者に関してはカウンセリングルーム MOMO の末次絵里子先生をお招きし、前回同様講演会と座談会を開きました。第3回のイベントは、保護者からの「もっとたくさん開催してほしい」「イベント開催までの期間が長い」といった意見を取り入れ、平成22年3月21日に開催しました。前回までに比べ、グループで行なうゲームを取り入れたことで児童・生徒同士の交流が深まり、保護者についても保護者同士での情報交換の時間を設けて交流を持ちました。また、午後からは第1回、第2回と同様に臨床心理士の稲永努先生を招いての講演会・座談会を開きました。3回のイベントには毎回10～15組ほどの家族が参加してくださり、好評をいただくことができました。



「フリーダム」での講演会の様子（第2回）



みんなでボーリング（第2回）



児童・生徒との交流（体育館にて／第3回）

また、サークル員やサークル外の意欲ある学生のために外部の先生をお招きしての勉強会を企画・運営しました。今年度最初の勉強会として、4月26日には県立大学の藤田久美先生をお招きしました。藤田先生には自閉症児との関わりを伝えていただき、これから1年間、さまざまなボランティアをやっていく上でのボランティア精神をお教えいただきました。新入生や新たなサークル員にとってはボランティアへの参加は未知の領域であり、不登校の児童・生徒や障害を抱える子どもと実際に関わることへの不安感が拭いきれません。その不安を取り去る上で、藤田先生が県立大学で展開されている学生ボランティアセンターには学ぶことが多くありました。



勉強会の様子（藤田久美先生）

また、11月1日にお招きした石川章先生は「不登校の子どもの心によりそう勉強会」の講演会をお願いしました。石川先生は近年増加傾向にある引きこもり・不登校の専門家であり、現代社会の大きな問題のひとつである引きこもり・不登校について学ぶいい機会となりました。

平成22年に突入した1月23日には武田朋昭先生による「発達障害の特徴と付き合い方のヒント」というテーマでの講演会をしていただきました。武田先生は発達障害のプロフェッショナルであり、発達障害の問題は学部生のうちに学ぶことが非常に難しい現状があります。しかし、教室に6.3パーセントは在籍しているといわれ、その対応が求められています。そのような背景のなか、普段、医学の分野で発達障害の子もたちと関わりのある武田先生に是非とお願いして実現した勉強会でした。

石川先生、武田先生の勉強会はサークル員のみならず、一般の学生にも告知・公開し、この勉強会をきっかけにサークルでのボランティア活動に参加するようになった学生もいます。また、一般参加の学生の中から「もっと開催してほしい」という要望の声も得られました。さらには学生だけに留まらず、中には教員でも勉強会を聞きに足を運ばれる方がいらっしゃいました。もっと不登校や発達障害について学びたいという意欲あるサークル員や学生の声に応えるためにも、また、社会の期待に応えるためにも、今後もさらに充実した勉強会の開催を目指して企画・運営を続けていきたいと考えています。



勉強会の様子（武田朋昭先生）

不登校イベント「フリーダム」などを通じて、不登校の児童・生徒を持つ保護者の間でサークルの存在が認められるようになってきたと感じたのが、平成22年2月27日に不登校の児童・生徒の親の会である「かめの会」さんが開催した「不登校アラカルト」へのボランティア派遣でした。第2回「フリーダム」に参加された保護者の方からは是非手伝ってほしい、との依頼を受け、サークル員がボランティアとして参加しました。当日は、当初の予定にあった託児のボランティア以外にも設営や参加希望者の誘導などを行い、また、「かめの会」の方々や講演を行なった西村秀明先生、それにゲストとして東京から参加された彦田くるみさんとの交流を持つことができ、実りの多いイベントとなりました。

普段の活動の一環としては、ホットサロン「てとてと」において、託児のボランティアを行なっています。活動の日時などの規定は特になく、授業の空きコマなどを活用し、施設を訪れています。「てとてと」は未修園児や幼稚園児が保護者と一緒に訪れて、他家族と交流を行なう場であり、私たちは絵本や砂遊び、ごっこ遊びなど様々な遊びを通じて子どもたちと交流しています。同時に、子どもたちの安全に気を配り、保護者同士が安心して交流できる時間を作っています。

2. おもしろプロジェクト参加による活動の向上

平成21年度はおもしろプロジェクトに参加することによってサークル活動をより充実したものへと発展させることができました。

まず、不登校イベント「フリーダム」のような大がかりなイベントを数回にわたって開けるようになりました。「フリーダム」では、児童・生徒との交流の場に必要な遊具や参加募集や中学校への協力要請のための書類等、事務用品の購入などサークル費のみでは賄うことの難しい多額の出費があり、そこにおもしろプロジェクトの資金をあてました。さらに保護者からの「もっと開催してほしい」との声にも、おもしろプロジェクトの資金援助によって迅速に応えることができました。その結果、不登校の子どもたち同士がコミュニケーションをとることができるようになったり、本プログラムを通して、学校に通うことができるようになったりする子どもも見られた。本プロジェクトの特色である学生と子どもたちの関わりが成功したといえます。保護者の声も「平日は忙しくて聞けない不登校の専門家の講演会も聞くことができ、子どもたちが学生と関わってしてくれるので安心できる」「こんな学生たちに学校の先生になってほしい」「親同士の関わりが持てて助かる」「来年、開催してくれなければ困る。毎年開催され続けて欲しい」といった賛辞でした。

また、講師の先生をお招きする勉強会では先生への謝礼金や交通費などをおもしろプロジェクトで賄うことで、より遠方から著名な先生をお招きすることができるようになり、学習内容をより一層充実させることができました。勉強会を開くことで、教壇に立つであろう学生からは「授業では扱わない内容なので、もっと学びたい」との声や実際にサークル員として活動に参加する学生も増えました。

3. 今後の活動予定

今後の主な活動の予定は次の通りです。

不登校イベント「フリーダム」は今年度と同様、年3回の開催を予定しています。前回までの反省を活かし、より一層充実したイベント運営を目指しています。

また、サークル員や大学生の発達障害における知識や理解を深める機会として専門家をお招きした勉強会を積極的に開く予定です。昨年度とは異なった分野の専門家など、内容も吟味する予定です。

さらに、サークル初の試みとして不登校のイベント情報やコラムなどを掲載した情報誌の発行を企画しています。これは「フリーダム」に参加された保護者から寄せられた、「イベントなどに関して、もっと多くの情報がほしい」といった意見や、他の不登校関連団体の発行しているパンフレット等を参考に企画したものです。現在はプロジェクトとして立ち上げたばかりの段階ですが、来年度には発行を開始する予定です。